

「越境性植物病害虫の研究連携に関する国際ワークショップ」 結果概要

1. 概要

2019年4月に日本で開催されたG20首席農業研究者会議(G20MACS)[※]において、我が国は議長国として、「越境性植物病害虫」を主要議題の一つに取り上げた。会議では、越境性植物病害虫が食料安全保障と環境に対する深刻な脅威となっていることが認識されるとともに、病害虫の発生や管理に関するG20各国等の経験や最新情報を共有し、効果的な対策のための研究連携を促進するため、2019年にワークショップを開催することを我が国から提案し、支持された。

このことを踏まえ、農林水産省は、G20メンバーなど関心国及び国際機関の研究者を参集範囲とする国際ワークショップを開催。世界における主要な越境性病害虫の発生や管理に関する最新情報の共有、分野横断的な課題の検討を行うとともに、研究者間のネットワークの構築等を図ることにより、国際的な研究連携を促進するための議論を行った。

(※) G20MACS (Meeting of Agricultural Chief Scientists) は、G20各国及び国際研究機関の首席農業研究者が参集し、世界における研究の優先事項を協議するとともに、各国等の連携強化を目的とするもの。2012年から毎年G20サミット開催国で開催。2019年は我が国が議長国として、4月24日～26日に東京で開催。

2. 日程

(1) 2019年11月27日(水曜日)

①開会挨拶

・岩永 勝 G20MACS議長(農林水産省顧問/国際農林水産業研究センター理事長)

②歓迎挨拶

・島田和彦 農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官

③セッション

(主要病害虫に関する最新情報や対応への課題等についての報告、意見交換)

④レセプション

(2) 2019年11月28日(木曜日)〈現地視察〉

①農研機構視察(農業環境インベントリ展示館、遺伝資源センター)

②ポスターセッション(筑波産学連携支援センター)

横浜植物防疫所、農研機構による我が国の主な植物病害虫への対応事例の紹介

③イチゴ病害防除の実証ほ場視察(こごろファーム)

(3) 2019年11月29日(金曜日)

①セッション(分野横断的事項に関する現状や対応への課題等についての報告、意見交換)

②全体討議

③総括、閉会

3. 場所 つくば国際会議場(茨城県つくば市)

4. 出席者

日本、豪州、ブラジル、中国、フランス、ドイツ、インド、イタリア、韓国、サウジアラビア、南アフリカ、トルコ、英国、オランダ、ニュージーランド、国際農業・バイオ科学センター(CABI)、国際熱帯農業センター(CIAT)、国際とうもろこし・小麦改良センター(CYMMYT)、国連食糧農業機関(FAO)の植物病害虫に関する研究者等の専門家等(計66名)

日本からの出席者は、

(1) 農林水産省: 島田研究総務官、本城国際研究官ほか

(2) 農研機構: 中谷副理事長ほか

(3) 国際農研: 岩永理事長(G20MACS議長)ほか

(4) その他: 大学教員、日本植物防疫協会、農薬工業会等

5. 結果概要

(1) 本ワークショップでは、G20メンバーなど関心国及び国際機関から研究者等が参加し、越境性植物病害虫に関する経験や発生及び管理に関する最新情報を共有するとともに、重要な植物病害虫への効果的な対策を開発する助けとなる国際的な研究連携を促進するための方策について議論を行った。

(2) ワークショップ前に、各国等の病害虫診断の研究所、研究機関及び大学等の研究者等の専門家から構成される9つのディスカッショングループ※を設立し、ワークショップに向けE-mailベースで最新情報や課題等の整理を行った。ワークショップ当日は、各グループのリーダーが対象病害虫等に関する最新情報や対応の課題等の報告を行い、それらに続き議論を行った。

(※) 9つのディスカッショングループ

- ① ツマジロクサヨトウ
- ② ミバエ
- ③ コムギいもち病
- ④ *Xylella fastidiosa*
- ⑤ トマトブラウン病
- ⑥ カンキツグリーンング病
- ⑦ バナナパナマ病 (TR4)
- ⑧ ヤシオオオサゾウムシ
- ⑨ 分野横断的事項

(3) 参加者からは、病害虫の効果的な対策を開発するため、病害虫の発生等の最新情報や研究材料の迅速な入手、途上国への支援等が必要であり、関係するFAO、国際植物防疫条約(IPPC)、国際農業研究協議グループ(CGIAR)及び国際的な共同研究ネットワーク(Euphresco)等の取組がなされていることから、これら既存の国際的及び地域的な活動及び仕組みへの積極的な参加及び活用並びにそれらの取組で定められたルールに対する各国政府のコンプライアンスの向上、本ワークショップのために組織された8つの病害虫のディスカッショングループにおける連携の場等を活用した各国の研究者や関係者のネットワーク化、病害虫の診断等での研究所間の連携強化を促進すること等が重要であるとされた。

(4) ワークショップの議論の成果は、2020年の次回G20MACS会合(サウジアラビア)等に報告するとともに、ワークショップで発表された資料等をホームページ上に掲載する予定。